

未来が求める、その先の学び舎へ―。

◎「学生生活満足度調査」を実施 学生の意見を今後の改善方策に生かす

調査結果を詳細に分析し、学内の改革・改善に役立てる

常磐大学・常磐短期大学では、9月29日から10月10日にかけて、すべての学生を対象とする「学生生活満足度調査」を行った。この調査は、大学・短大に対する学生の満足度や意見を明らかにし、学生支援や授業内容の充実と改善に役立てるために実施している。前回は2006年度に実施しており、今回で2回目の調査となる。



学生の様々な課題や相談に応じる「総合窓口」を設けた学生支援センター

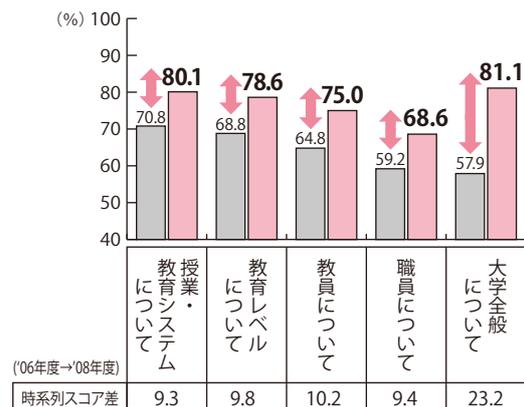
今回の調査結果で特徴的なのは、全体的に満足度スコアが高くなったことである。大学では、特に、「授業・教育システム」「教育レベル」「教員」「職員」のスコアが大幅に伸びて評価が改善した。「授業・教育システム」については、2006年度以降、基礎学力の支援からレポートの書き方まで少人数で指導するプレゼナール科目の導入による学生支援体制の強化が評価に結びついたと考えられる。「教員」については、学生の状況について情報交換を行い、アドバイザーによる学生相談等を実施した取り組みが評価されたと思われる。短大では、前回と同様に総じて満足度が高い結果となった。これは、以前からのきめ細やかな学生対応が継続されている成果であるといえる。また、学生支援センターをはじめとした教学機構改革によって、一貫した学生事務手続きが実現した。これにより「事務手続きが分かりやすい」「事務処理がスムーズ」などの項目が改善されたことは評価できる。

前回と比較すると、大学・短大共に大幅なスコアアップが見られたが、今回の調査結果に甘んじることなく、学生の意見を真摯に受け止め、さらに学年別・学科別などで調査結果を分析しながら、実際の具体的な取り組みがどの程度評価に結びついているか「学生による大学評価実施委員会」で詳しく検討を重ね、これからの改善方策に生かしていく計画である。

次の調査は2010年度を予定している。今後は、より学生の本音を引き出せる調査となるよう実施方法にも検討を加えていく考えだ。

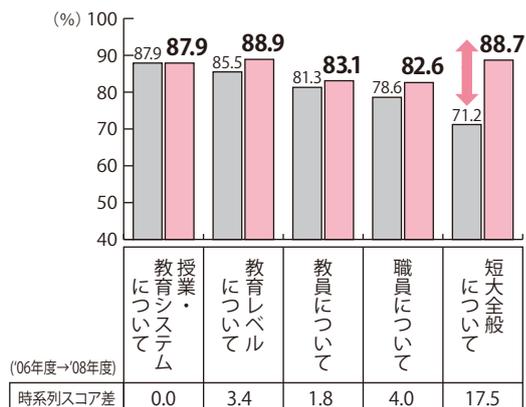
■ 大学生生活満足度 時系列比較

■ 2006年度 大学 (N=1878) ■ 2008年度 大学 (N=1913)



■ 短大生活満足度 時系列比較

■ 2006年度 短大 (N=829) ■ 2008年度 短大 (N=621)



常磐学園短期大学附属幼稚園
(現・常磐大学幼稚園) 園舎外観
(1981年) *解説=8p

■ 大学院修了生が臨床心理士資格認定試験に合格

指定大学院として初めて臨床心理士2名が誕生

● 大学院で得たスキルを地域貢献に活かす

常磐大学大学院人間科学研究科人間科学専攻臨床心理学領域を修了した2名が臨床心理士資格認定試験に合格し、指定大学院として初めての臨床心理士が誕生した。資格を取得したのは2006年3月に修了した尾見さゆりさんと、2007年3月に修了した枝松慎次郎さん。現在、臨床心理学領域は第1種指定大学院となり、修士課程修了後直ちに臨床心理士資格認定試験の受験資格を得ることができる。しかし、2人が修了した当時は第2種の指定大学院であったため、1年間の実務経験を経て臨床心理士資格の取得となった。

臨床心理士は、心の問題が原因で、身体の異常や生活上の不具合に悩む人を、心理学的な方法でサポートするエキスパート。病院の心療内科や精神科、家庭裁判所や児童相談所などの司法施設、障害児福祉施設や老人福祉施設といった福祉施設、また、学校で児童や生徒へのカウンセリングを行うスクールカウンセラーなど、幅広いフィールドで活躍している。

今回、臨床心理士の資格を取得した枝松さんも、茨城県内の社会福祉法人で支援員として働いている。

「就学前児童に対する療育を行っています。私が相談に応

じているのは、知的障害や身体的障害を持つ子供たち。地域の保育士の方だけでは補えない部分を、臨床心理士としての立場からサポートする形です。仕事では保護者の方のカウンセリングを行うことも大切ですが、それだけではありません。障害を持つ子どもたちが、どうしたら社会に適合できるようになるのか、さまざまな角度からアプローチするなど、現実的な対応も重要になります。その結果、子どもの行動が改善の方向に進んで行くのを目の当たりにすると、本当に嬉しいですね。もちろん、保護者の方の心の負担も軽減されますし。臨床心理士には学問的な知識と、現場でのスキルが必要なんだと実感しています」

現状では就職など難しい問題もあるが、社会的ニーズの高まりとともに、今後の活躍が期待される。



↑ 枝松 慎次郎さん「就職状況や待遇の面などで大変厳しい状況ですが、やりがいはあると思います。目指す人は、進みたい分野を決めて臨床心理士を目指してください」

■ 産経新聞社の協力による双方向遠隔授業

芝浦サテライトキャンパスを活用した特別講義を実施

● 国際的ジャーナリストが講義する「オバマ大統領と国際情勢」



東京で行われる講義をリアルタイムで受講する、双方向遠隔授業が1月28日に行われた。このシステムは、東京芝浦のキャンパス・イノベーションセンター内に設置された芝浦サテライトキャンパスと水戸の常磐大学を結び、ライブ型の授業を実現させるもの。eラーニング及びテレビ会議システムを活用し、複数のディスプレイに教員、ホワイトボード、資料などを鮮明に映し出すことを実現。また、音声での質疑応

答も可能なため、同じ教室内で講義を受けているのとはほとんど変わらない環境で授業を進行することができる。

双方向遠隔授業が行われたのはコミュニティ振興学部・林寛一教授の「比較政治学」。芝浦サテライトキャンパスに産経新聞の論説委員を務める湯浅博氏を迎え、バラク・オバマ氏のアメリカ大統領就任にともなう国際情勢について特別講義が開催された。湯浅氏は中央大学法学部を卒業後、産経新聞の特派員としてワシントン支局長、シンガポール支局長などを歴任。現在は国際的なジャーナリストとして、政治、経済、外交など幅広い分野で活躍している。

講義では、オバマ氏の大統領就任演説やホワイトハウスの新しい閣僚人事などから、今後のアメリカ外交を予測。混迷を極める中東・アフガン情勢、また日本をはじめとするアジアの現状を踏まえて、世界的に国際貢献を要求するアメリカと、それに対する日本の早期対策の重要性を解説した。

講義終了後に行われた質疑応答では、学生から「オバマ政権は日本に強攻策を取るのか」など踏み込んだ質問がなされ、国際社会の中の日本を再認識している様子だった。

TOKIWA INTERVIEW ①

実学のすすめ

～多様化する大学教育の役割～

宮田 武雄氏 (学校法人 常磐大学 理事・評議員)

文部科学省が行った平成20年度学校基本調査によると、大学・短期大学への進学率が55.3%と過去最高を記録した。我が国の教育水準が上がることは、もちろん歓迎すべきことだ。しかし、既存の教育機関は、この高学歴化に十分対応しているのだろうか。茨城県立産業技術短期大学校で学校長を務める宮田武雄先生に、現在の大学に求められる役割についてお話を伺った。

「大学への進学率が上昇してユニバーサル化し、学生数も大学数も増大した今、大学は多様化する必要があると思います。多様化の方向は、例えば、専門家を育成する大学、教養人を育成する大学、地域の文化センターとなる大学、学問を探究し学者を育成する大学など。こうした大学の役割のひとつとして着目したいのが、プロフェSSIONALの育成です」

宮田先生は、以前、民間企業で電子部品の開発に携わっていた。自らの経験を通して、大学がプロフェSSIONALを育成する重要性を実感しているのだ。

「これまでの大学教育には、実践性が十分でないと感じることが多々ありました。学問を追求することは大変意義深いことですが、一面で実社会に内在する課題と遊離した側面がないとは言えない。例えば工業製造の分野における大学では、求められる機能を実現する高度な技術を教育します。しかし、それだけではプロとしては通用しない。市場ニーズに適合する製造コスト、使用環境下での信頼性の確保、使用時のサービスやサポート体制の構築など、総合的に考える必要があります。また、顧客や職場でのコミュニケーションを円滑に行うことや、変化の速い市場や技術への迅速な対応も重要です」

学問としての知識や技術だけでは、実社会で通用するプロフェSSIONALになることは難しい。

「プロフェSSIONALの総合力は『専門力』『社会力』『基礎力』で構成されると考えています。より高度で実践的な専門力と、社会の中で自己を確立し、社会と自己の関係を円滑にする社会力。そして、急速に進歩する専門領域の技術や知識体系に対応する基礎力が必要なのです」

では、その役割を大学が担うためには、どのような教育が必要なのだろうか。

「理想化され抽象化された学問的理論に加えて、実際の場面で生じる不純物的要因や制約条件を含めた実践的な教育が必要です。そのためには、インターンシップなどの体験型教育や、それぞれの分野で現役で活躍するプロを講師に迎えるのもいい。また、大学教員が一定期間現場を体験してみるのも有効な試みだと思います。プロが現場と大学を兼職するとか、時限的に往来するとかの画期的なシステムが生まれるかも知れません。さらに、それらの教育内容と教育方法を有機的に組み合わせ、効果的なカリキュラムを構成することも可能になります。また、社会の中で円滑に専門力を活用するための社会力向上カリキュラムや、自ら問題を把握し解決するプロジェクト型授業も有効だと思います」

理系の大学でのプロフェSSIONAL育成は、ある意味分かりやすい。では、文系大学の場合はどうだろう。

「これは文系の大学でも同じです。それぞれの分野ごとに、それぞれの時代において必要なプロフェSSIONALの総合力を教育する。それが大学ユニバーサル化時代において、これまで以上に大学の存在意義を増大させる重要な役割となると思います」

常磐大学・常磐短期大学では、社会で必要となる応用能力を養いながら、総合的な問題解決能力と意思決定力の養成を目指して教育に取り組んでいる。改めてプロフェSSIONAL育成の重要性を認識した。

PROFILE



みやた・たけお ●1939年生まれ。東北大学大学院工学研究科博士課程修了、工学博士。専門は電子工学。ミツミ電気株式会社開発センター長を経て、1976年茨城大学工学部助教授に就任、教授、共同研究開発センター長、工学部長を経て、1998年茨城大学長に就任。2005年茨城大学名誉教授、茨城県立産業技術短期大学校長に就任、現在に至る。



国際学部ゼミナール委員会

学生による就職セミナー開催！



大学3年生と短期大学1年生たちの、2010年度入社に向けた就職活動がスタートした。世界的な景気低迷の影響で厳しい活動が予想されているが、そんな学生たちを支援する就職セミナーが12月2日から3日間開催された。

このセミナーは国際学部ゼミナール委員会が主催し、就職が決まった4年生35名の協力で開催。企画から運営まですべて学生が自発的に行い、後輩たちの就職活動をサポートした。

セミナーは企業が行う合同説明会を参考に実施。学生ホールのテーブルをブースに見立て、サービス、流通、金融など業種別に行うスタイルを採用した。各テーブルを担当するのは、その業界への就職が決まった4年生。開催期間中はスタッフが交代でテーブルに常駐し、訪れる3年生の相談に応じた。

レクチャーする内容は、就職活動全体の流れや、振り返って感じたこと、さらに昨年の同時期に取り組んでいた具体的

な活動など。もちろん、その都度3年生からの質問に答え「あくまで同調する姿勢を保ちプラス思考を促す」というコンセンサスも取っている。基本的に時間は無制限だが、混み合っている場合には1組20分程度で入れ替えるという基準を設け、どのテーブルでも同じ条件で相談できる環境を整えた。

現在の就職活動は情報戦でもある。学生たちがネットワークを作りそれを活用することで、就職活動を有利に展開することができる。主催した国際学部ゼミナール委員会の委員長、国際学部国際関係学科4年の大川祐太朗さんは「景気の悪化で就職難が予想されていますが、後輩たちをしっかりサポートしたいと考えています」と、力強く語っていた。



↑学生証を提示すれば誰でも参加できる。3日間で約120名の学生が就職活動の相談に訪れた(左)。国際学部ゼミナール委員会委員長の大川祐太朗さん(右)。→国際学部ゼミナール委員会のメンバーたち。

Fight!!
私たちの就活体験を活かしてください!



託卵

カッコウは、ウグイスの巣に卵を産み、自分では温めも育てもせず、ウグイスの親鳥に一切の子育てをやらせようという。その習性は「託卵」と呼ばれ、カッコウ以外の鳥にも見られるようだ。水鳥の中にもそんなことをする鳥がいて、たとえば、カモが他の種類の親鳥の巣からかえって来ることもあるらしい。それを聞くと、アンデルセンの「みにくいアヒルの子」の童話も、現実にはあり得ないことでもなさそうに思えてくる。

習性とはいえ、なぜ託卵をするのか、また、託卵された鳥もなぜそれを甘んじて受け入れるのか、ということの理由については色々な説がある。そのうちの最新の「マフィア仮説」によると、託卵は卵を預けられる鳥にとっては、一種の生き残り戦術なのだ。ある種の鳥は、別な種の鳥の巣を襲撃して、卵も巣も台無しにしてしまうことがあるらしいが、自分が託卵して子供を育ててもらっている場合は、その巣を襲うことがない。観察によって確かめられたところによると、託卵された卵を捨ててしまっ襲われるよりは、いっそ育ててしまう方が、卵を預けられた鳥にとっては結果的に有利になる、という。

このやり方は人間社会にも当てはまりそうだ。よく、防衛のために強固に武装すればするほど、相手もますます武装を固めるので、結果として社会全体の脅威は高まる、ということがいわれるが、理不尽な要求をする相手であっても幾ばくかの代償は受け入れ、かねあいを計りながら身を守っていく、とい



学生支援センター

キャリア支援担当から

● 2008年度の就職状況について

新聞等で空前の売り手市場と言われた就職環境であったが、2008年9月以降世界的な景気後退や企業業績の悪化が顕在化し、新卒の求人においては年度後半に景気後退の影響が強く感じられる状況となった。

このため現在の環境は前年度比で大変厳しくなっているが、2009年1月現在における就職率は大学・短大とも前年度並みの水準にあり、就職を希望する学生全員の就職確保に向け最後まで就職支援に注力していく。

● 2009年度の就職について

就職環境は更に厳しくなるとの見通しであり、就職試験に臨む大学3年生、短大1年生に対しては昨年からの就職環境の説明や各種就職試験対策講座、合同会社説明会バスツアー、電話や窓口での個別指導などを通じて従来以上にきめ細やかな就職指導に努めている。採用人数を削減する企業が増加し、Uターン学生との競争も一段と厳しくなるが、現状を認識し十分な事前準備と積極的な就職活動をしていけば、学生にとって納得できる就職が実現できるものと考えている。

● 学内会社説明会（2010年3月卒業生対象）

2月、3月で計4回開催、約250社が参加。夏休み前まで毎月開催を予定している。就職環境が厳しくなっていることは学生も強く感じており、以前にも増して積極的な参加姿勢が感じられる。



主な就職内定先（2008年度卒業生）

■ 常磐大学

イオンリテール(株)
茨城トヨタ自動車(株)
茨城県厚生農業協同組合連合会
(株)伊勢基本社
近畿日本ツーリスト(株)
商工組合中央金庫水戸支店
(株)常陽銀行
住友林業(株)
(株)損害保険ジャパン
東京海上日動火災保険(株)
(株)東芝
日本郵政グループ各社
東日本旅客鉄道(株)
(株)みずほ銀行
地方公共団体（小山市、笠間市）
茨城県警察本部、警視庁

■ 常磐短期大学

(株)INAX
茨城中央農業協同組合
(株)オンワード樫山
カネボウ化粧品販売(株)
(株)常陽銀行
(株)JR東日本リテールネット
新幹線メンテナンス東海(株)
大和ハウス工業(株)
日本生命保険相互会社
日本郵政グループ各社
(株)日本レストランエンタプライズ
日立電線(株)
公立保育所
（東京都中央区、稲敷市、大子町、いわき市）

諸澤 篤子 [学校法人常磐大学 常任理事（一貫教育担当）]

うのは確かに共存のための賢い戦術かも知れない。

ところで、託卵の習性で私が気になることのもう一つは、託卵されて別な種類の親鳥に育てられた雛は、なぜその親鳥こそが自分の親であり、自分はその親と同じ種の鳥だ、と思いつままないのか、ということである。鳥には、卵からかえって初めて見た動くものを親と思いつまむ「刷り込み」という現象が起ることを聞けば、なおさら不思議である。

たとえば、ウグイスの巣で育つカッコウの雛の立場で考えると、自分がウグイスの親鳥に慣れ親しむことなく、将来カッコウとして決然と生きていくためには、やはり何かの信号なり仕掛けなりがないといけないような気がする。素人なりに思いつく仕掛けとしては、カッコウの親は卵を預けた巣の近くに付かず離れずして、時折顔を見せては、「私がママよ」と示すか、雛が巣立った時にすかさず飛んでいって名乗りをあげ、子にカッコウとしての自覚を促す、などである。カッコウの親の身になればその辺が一番気になることだろうから。

自然界はそれぞれの種が長い進化の歴史のなかで意味づけてきた世界である。そこには人間の思考法では思いもつかないような、種の保存のための魔法が潜んでいるのだろう。

大学における組織的な教育環境改善を推進

● 第3回FDフォーラム開催



会場には約120名の教職員が集まった。



講演を行った半田智久氏。

人間科学部准教授、松田和子・学生支援センタースタッフの3名。それぞれの大学で視察した教員たちの熱意や充実したアメニティ、また、学生支援、教職員支援への組織的な取り組みなどを報告し、学生、教員、職員の相互

理解に基づく教育環境の構築を提案した。

教育環境改善への組織的な取り組みの一環として、第3回常磐大学FDフォーラムが2月20日に開催された。

第2部では、静岡大学大学教育センター教授の半田智久氏による講演会が『機能するGPA制度について』と題して行われた。fGPAとは、秀・優・良・可などで表わすことの多い成績を、fGPA得点に置き換え厳正に評価する制度。学力を測る指標として、現在、多くの大学で導入が検討されている。講演では半田氏が提唱する算定方法も紹介され、成績評価の在り方を見直す際の参考となった。

今後の常磐大学では、学生の学士力向上のため、2012年の改組を目標に教育改革を進める計画だ。

今回のフォーラムは、2部構成で実施。第1部では『米国大学視察報告』が行われた。このアメリカの大学視察は、諸澤英道理事長と高木勇夫学長の提案で実現されたもので、リベラルアーツを実践する4校を訪問。少人数教育のリベラルアーツカレッジの教育手法から、常磐大学での教育に取り入れられるものを調査することが目的だ。派遣されたのは森山哲美・人間科学部教授、河野敬一・

男子バスケット部県大会初優勝、関東大会ベスト8進出!

● PTA広報委員会 平成20年度広報紙コンクール優秀賞受賞

1月17・18日、関東高校新人バスケットボール大会県予選会決勝リーグが行われた。常磐大高は強豪チーム取手松陽高校と対戦し、その緊迫したゲーム展開は1点を争うものだった。常磐大高は終了残り1秒でフリースローの権利を取得。これを関口恵介君(1年)が2本とも成功させ、劇的な逆転勝利で県大会初優勝をつかんだ。

常磐大高は多くの負傷者を抱え、満足のいく状態でこの日を迎えられたわけではなかった。川崎秀典教諭は「互いにカバーし合い、結束していた」と振り返る。共に厳しい練習に耐えた仲間との信



2月に神奈川県秦野市で行われた関東大会ではベスト8進出を果たした。

頼感と、逆境に負けない強い精神力を身につけてきた末に勝ち取った勝利。常磐大高バスケットボール部のこれからの活躍に目が離せない。

茨城県高等学校PTA連合会主催の平成20年度広報紙コンクールにおいて、本校PTA広報委員会が作成した広報紙が優秀賞を受賞した。

本年度は53校の応募があり、その中での優秀賞受賞。職員紹介や校内案内図、各部活動の活躍や行事など、とても見やすく、そして生徒たちの学校生活が見えるように作られている。学校を支えてくれる保護者の方々に改めて感謝すると共に、これからも生徒・保護者・職員が一丸となって常磐大学高等学校を盛り立てていきたい。



左から滑川さん、市橋さん、竹内さん。

智学館中等教育学校

NEWS*

第1回英語暗唱大会の開催

● 日頃の練習の成果を大勢の前で堂々と発表

11月22日、智学館中等教育学校第1回英語暗唱大会が開催された。本大会は、暗唱を通して英語の音やリズムに親しみ、気持ちを込めて表現する態度を身につけること、そして人前で自信を持って発表を行う力を高めることを目的として実施された。生徒達は、7つの課題文から1つを選び、約1カ月にわたる練習の成果を発表した。まずは4つの会場で予選が行われ、その中から12名が決勝戦への進出を果たした。決勝進出者の中からは、優秀賞2名及び最優秀賞1名が決定した。優秀賞には1年次3組の本沢美月さんと1年次4組の野上美咲さんが、最優秀賞には1年次3組の関奈都美さんが輝いた。これら個人の部に加えて、最優秀クラス賞には1年次1組が選ばれた。最優秀賞を受賞した関さんは「家で家族に聞いてもらいな



最優秀賞の関奈都美さん。

がら練習したり、学校で友達と一緒に練習したりと毎日コツコツ頑張ってきたので、優勝した時は本当にうれしかったです。発表している時はたくさんの人の前だったのでとても緊張しました」という感想を話してくれた。生徒達にとっては初めての英語暗唱であったが、当日は大勢の聴衆の前で、気持ちを込めて堂々と発表を行うことができ、今後の英語学習へのさらなる励みになった。



常磐大学幼稚園

NEWS*

学校法人内の諸学校との連携

● 実習生を受け入れることによる互惠性*

常磐大学幼稚園では、学校法人内の諸学校との連携を図っている。常磐短期大学との連携では、幼児教育保育学科1年生約140名の教育実習、幼児教育研究会では、幼児教育保育学科の教授らより助言及び指導を受けている。常磐大学高等学校との連携では、2年生(将来幼稚園教諭志望者)のインターンシップ実習。2008年度は、新たに常磐

大学大学院人間科学研究科修士課程1年生3名の臨床心理実習を受け入れた。様々な実習生を受け入れることにより、教員以外の環境の違う大人とのかかわりが園児の成長の手助けとなり、学生にとっても学びの場となることを確信し、学校法人内の諸学校と尚一層の連携を図り、今後も受け入れていきたいと考えている。

常磐大学大学院人間科学研究科学生の感想

短い時間ですが、毎週子どもたちと一緒に遊ぶことを通して、子どもたちの成長する姿を直に感じる事が出来ました。



大和 雄太さん

子どもたちの世界はとても新鮮で新たな発見の連続です。子どもたちの作りだす世界を間近で感じることができ嬉しく思います。



白井 春菜さん

子どもの発育、先生方の声かけの様子や園児同士の関わり方を学ぶことができ、有意義な時を過ごすことができました。



川野 裕香さん

*互惠性…互いに相手に利益や恩恵を与え合う性質や性格のこと。

常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学
常磐大学高等学校
常磐大学幼稚園
智学館中等教育学校

卒業生センター便り
**常磐短期大学幼児教育保育学科
ホームカミングデー開催!**

12月21日、見和キャンパスにおいて、常磐短期大学幼児教育保育学科2007年度卒業生を対象としたホームカミングデーを開催した。卒業生80名、教職員10名の計90名が参加。

開会のことばに続き、鎌田道夫学科長より「今日は、社会人になってからの喜びや悩みなど、友達や先生と語り合ってください。また、今日は『幼教フェスタ'08』を開催しています。学生の研究成果を見てください」と挨拶があった。懇親会では、参加者が近況や学生時代の思い出を話しながら、卒業生・教員とも再会を喜び、親交を深めていた。参加者からは、「久しぶりに友人と会えて、楽しい時間を過ごせました」、「なかなか大学に来ることがないので、今後もこのような機会をつくってほしい」などの感想が寄せられた。



水戸信用金庫寄付講座（地域金融論講座）

◆現場の声を聞き実務的能力を養う



12月18日、常磐大学人間科学部の地域金融論講座において、西野一郎水戸信用金庫理事長による特別講義が行われました。

この講座は、水戸信用金庫のご芳志により設けられ、学生が理論だけでなく、現場の雰囲気を知ることで金融に対する理解を高め、実務的な素養を習得し、地域経済を担う人材を育成することを目的としており、常磐大学教員による講義に、水戸信用金庫で実務に就く職員の方による講義などを織り交ぜて展開されています。

2005年4月に開設、来年度で5年目を迎え、2010年度まで継続される予定です。

◀水戸信用金庫のさまざまな取り組みを語る西野一郎水戸信用金庫理事長

寄付者ご芳名 *敬称略 [期間 2009年1月～2月]

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

◆一般寄付

寄付者	金額	寄付者	金額
海老澤 よし子 (高校卒業生)	30,000円	諸澤 篤子 (常任理事)	20,000円
村田 和恭 (大学・高校卒業生保護者)	10,000円	河野 公紀 (智学館中等教育学校教諭)	10,000円
匿名 (高校卒業生)	3,000円		

◆その他

(株)高輪スポーツより、智学館中等教育学校に対し、テニスボール(中古)約800個をご寄贈いただきました。

寄付金のお願い

この寄付金は、学校法人常磐大学における教育および学術研究の充実、発展を目的としたものです。この寄付金を園児、生徒、学生の教育や教員の研究活動へ有効に利用させていただき、地域や社会に貢献する教育機関として一層の努力をしてゆく所存です。皆様の格別なご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。

◆寄付金の申込み及び問合せ先

学校法人常磐大学 寄付資産運用課 TEL: 029-232-2759 E-mail: kifu@tokiwa.ac.jp
URL: <http://www.tokiwa.ac.jp/tokiwa/kifu/>

※寄付金の申込みは任意ではございますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

●常磐大学コミュニティ振興学部長の井上 繁教授が「日本都市学会賞」を受賞

井上繁教授の著書『世界まちづくり事典』が都市研究の進歩発展に貢献したとして、「2008年度日本都市学会賞(奥井記念賞)」を受賞しました。

—表紙写真解説—

Tokiwa Memories
*4

幼児教育の実践機関として、1970年に開園した。1997年に現在の新園舎が完成するまで、現在コミュニティ振興学部棟が建てられている付近に当時の園舎があった。幼稚園は、大学・短期大学や家庭、地域と連携しながら幼児教育のセンター的役割を担っている。

編集後記

日に日に暖かくなり、春の訪れを感じます。しかし、景気の低迷は続き、経済界は寒い冬の真ただ中。決して住み良い生活環境とは言えません。そんな中、常磐大学・常磐短期大学で2回目になる学生生活満足度調査が実施されました。結果は前回と比べて全体的にスコアアップ。これからも学内の生活環境のさらなる改善に、教職員一同努力していきます。